



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2024年8月1日

8月 270号

奈良・人と自然の会



<暑い中 飯盒でご飯を炊きました>



Contents

ホームページではカラーで見ることができます



ならやまプロジェクト	1	自然教室 奈良育英グローバル小学校 「校庭の自然」学習支援・レポ	8
Monthly Repo ならやま	2	ここ10年ほどを思い出して	9
里山の今（里山、エコ）	3	回想の山旅② 台湾第三の高峰 「秀姑巒山」(3829m)	10
里山の今（虫だより、花だより）	4	やさしい病害虫講座 ミカン類の病害虫-1	11
春の感謝祭・レポ	5	Gallery ならやま	12
放課後自然教室 佐保台小学校・レポ	6	幹事会報告・奈良学クイズ解答	13
月例研修会六甲高山植物園・レポ	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

梅雨明けとともに暑い夏がやってきた。連日各地で熱中症警戒アラートが発令されている。

そんな中、夏休みのイベント「夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！」も当日の朝になってできるだけ午前中に終わるべく凝縮することになった。急な変更にもかかわらず事前準備の良さと協力精神が発揮されて、無事に完遂。「仲間への尊敬と感謝」で結ばれた「強い集団」の面目躍如である。みんなが隙間を埋めあい、円滑な行事遂行につながった。また来年はさらに高齢化（会員平均年齢は77歳を超える？）することで夏のイベント開催に懐疑的な見方もあるが、子どもたちの笑顔はそんなことを許してくれそうにない。何とか工夫して・・・悩ましいところだ。



「大暑」 あ…もう開く（ビオ池の蓮）

梅雨のため7月は活動が1週間飛んだ。水田、畑、果樹園、花壇、草原、山林、どこも雑草の繁茂が激しい。なかなか「無理をせず」にはおられない状況だが、暑さ指数とにらめっこしながら・・・ご安全に！！

8月の活動特記事項 活動日： 1(木), 8(木), 24(土), 29(木), 15(木) は夏休みです

8月1日(木)：<協働活動> アダプトプログラム

8月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、下草刈り、薪割り
エコファーム	水田の除草、畑周辺草刈り ナス・夏野菜収穫、さつま芋・里芋の手入れ、スイカ・カボチャ跡地整備 冬物野菜畑の準備、鹿ネットの整備
景観	整備：梅林、杉林、彩の森、トンネル付近の草刈り ビオ：池・水路の景観保全・整備、西池水生生物調査 花：アジサイ剪定、道路沿い花壇草引き
パトロール	1～3コースパトロール、観察路笹草刈り
果樹	実りの森の草刈り、粘土質土壌排水改善、コンポストへの落葉の投入

活動日：第4土曜日およびその他の週の木曜日 9:00～12:30(7月4日から当分の間)

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率 60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

6月22日(土) 晴 48名

第四土曜日の活動は3回目となった。

里山Gは学びの森周辺の草刈り、薪材の搬出と薪割り、松林の整備。エコGは水田の除草、ジャガイモの収穫、スイカ畑など除草。景観Gは梅林、BC内の桜の木の下での草刈り。花班は第2駐車場横の花壇とBC内の梅の木の下での草引き。ビオ班は第一駐車場の水路、南水田周辺の草刈り、ビオエリアの整備。パトロールGは観察路パトロール、尾根道の草刈り、黄色テントの片づけ。果樹Gは真砂土の搬入、実りの森の除草。

6月27日(木) 晴 71名

エコGが中心となって春の感謝祭(カレー・



野菜サラダなど)を行う。7月の月例研修会、7月20日のイベントの案内を行う。

里山GはA地区の枯死木の処理、林内整備、No.25の草刈りと薪割り。エコGは春の感謝祭の準備、スイカなどの薫敷き、ジャガイモなど収穫。景観Gは彩の森、第三駐車場、緑陰広場の草刈り。ビオ班は第一駐車場内水路の泥上げと草刈り、西池北の湿地の草刈り。パトロールグループは佐保台小学校放課後自然教室実施に向けた下見、樹木の銘板取り付け。果樹Gは鶏糞の搬入、実りの森進入路の整備と除草など。

6月29日(土) 7名+佐保台小関係36名

パトロールGが中心となって、ならやまフィールドで佐保台小学校放課後自然教室を実施。

7月4日(木) 晴 73名

全員でアダプトプログラムを実施。月例研修会を8日に順延する連絡、7月20日のイベントのスタッフ募集の案内。

里山Gはイベントの準備、彩の森の倒木処理、No.25の草刈り、ベンチ設置など。エコGは水田の水草の除去、ジャガイモ収穫、畑の除草と耕運。景観Gは彩の森、第3駐車場、緑陰広場の草刈り。花班はアジサイ周辺の草引きと剪定。ビオ班は西池水生生物の定期調査、ザリガニ駆除、西池など周辺の草刈り。パトロールGは、観察路2コースのパトロール、さくら山の笹刈り、自然教室の下見など。果樹Gは実りの森の除草、倉庫の整理など。

7月11日(木)・12日(金)

降水確率60%の為、活動を中止。

7月18日(木) 晴 最高気温37度

69名+4名近大生

イベントの準備・テント張りを行う。11時過ぎ、暑さ指数が危険レベルになり、作業を休止。

里山Gはイベント準備、遊びの森の遊具設置、儀助道の倒木処理、薪割り。エコGは畑の草刈り。景観Gはイベント準備、第1・2駐車場、緑陰広場の草刈り、杉林、西竹林の整備など。花班はBC周辺の草引き及びアジサイ剪定。ビオ班は近畿大生4名の定期調査、ビオエリアの草刈り、掃除。パトロールGはイベント準備、テント設営、観察路1コースのパトロール、観察路の笹刈り。果樹Gは実りの森の除草、シソ、ブルーベリーの収穫など。

7月20日(土) 晴 36名+イベント参加54名



里山で遊ぼうイベント 熱中症警戒アラート発令への対応として計画を短縮して13:00までに終了。

里山グループ



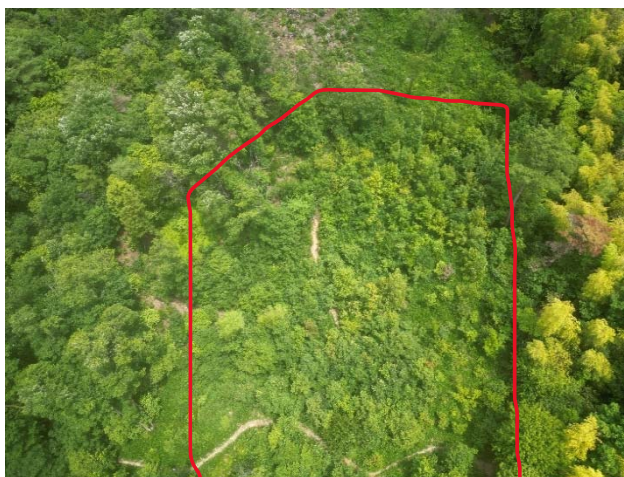
里山の今

エコグループ

若木が育つ里山林を目指して

山本 隆造

写真は経団連皆伐地の現状です。2016年～2020年にコナラやクヌギを植樹し8年が経過しました。自然実生のコナラも含め順調に生育し、里山林の世代更新が期待通り進んでいます。



コナラやクヌギを中心とした明るい広葉樹の森を、次世代に引き継ぐためには20年、30年という長いスパンを見据えた整備が必要です。里山グループでは倒木や枯死木の処理、繁茂した常緑樹の間伐といった、現状の里山林を維持することに加え、ならやまの主要樹木である高齢化したコナラやクヌギの世代更新を推進することが欠かせないと考えています。

具体的には、区分した30区画の内、毎年1区画(平均して約0.16畝)を順次皆伐更新していくのが理想ではありますが、現状のマンパワー等を考えると1区画内に20m×20m(約0.04畝)程度を設定し、順次部分皆伐して世代更新を図っていくことが現実的と考えます。

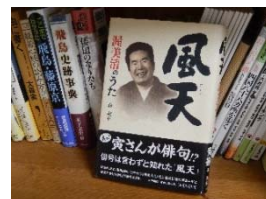
昨年度区画No.5で部分皆伐を実施しました。高齢化したコナラは萌芽があまり期待できませんが、状況を見ながら今年度植樹予定です。

皆伐地の整備状況、植樹の進捗などを見極めながら、順次小規模部分皆伐による世代更新を促進し、モザイク状に若木が育つ里山林を目指しています。

寅さんと俳句

藤原 勲

ある日、何か面白そうな本はないかと本屋さんの書棚を見て回っていると「風天」というタイトルの本に目がとまった。フーテン? どこかで聞いたワードだなと思い手に取ってパラパラと見るとあのフーテンの寅こと渥美清さん(本名田所康雄氏)の俳句と生前のエピソードを集めた本だった。渥美清さんは映画でフーテンの寅を演じるイメージしかなかう殆ど私生活や人となりを知られておられず、その為、エッあの人が俳句を作っていたのかと意外な気が少し驚いた。



早速その本を買って帰り読み始めるといつか夢中になっていた。渥美さんは句会にも熱心に出席されていたようで映画の撮影の合間を縫ってタクシーで句会に駆けつけたり、句会では1人静かに壁の方を向いて句を作っていたり、当日の優秀句の発表の時にはその句を朗々と読み上げ仲間が聞き入っていた等渥美さんの生の姿が見えてくるようであった。俳句を発表するに当たって俳号は何かいいかということになり、仲間がやっぱり寅さんのイメージの風天がいいだろうということに決まったようだ。この本には二百数十句ほどの作品が掲載されているが、誌面の関係上私の好きな句の一部を紹介する。

お遍路が一行に行く虹の中
好きだからつよくぶつけた雪合戦
ただひとり風の音聞く大晦日



赤とんぼじっとしたまま明日どうする
いわせれば文句ありそなせんべい布団
私も俳句を始めて8~9年になる。以前には素人ばかりの句会に参加していた時期もあったが今は、ネイチャーならに編集者の要請もあり下手な俳句と川柳を投稿させていただいている。
寅さんの声聞こへそう村祭り 勲

虫だより



里山の今

花だより

ジャコウアゲハ

菊川 年明

今回は、ならやまの皆さまにはおなじみのジャコウアゲハについてご紹介します。

ジャコウアゲハは生息する場所が限られています。そのわけは幼虫の食草にあります。幼虫の食草はウマノスズクサ（オオウマノスズクサを含む）という野草ですが、この野草が生えている場所が限られているからです。

この植物は毒草で、これを食べた幼虫はその毒を体内に蓄え、この毒は成虫のチョウに受け継がれます。それでジャコウアゲハは毒チョウなのです。普通ならチョウには天敵である野鳥がこのことを知っていて（不思議ですが）ジャコウアゲハを襲いません。

一方、ジャコウアゲハは野鳥に襲われないことを知っているのです（これも不思議です）悠然と飛びます。このチョウが人を恐れないことはならやまで気付かれていると思います。ちなみに、野鳥が敬遠するジャコウアゲハに姿態を似せた（擬態）アゲハモドキというガがいます。

反面飛翔力は弱く、生まれたところから自力で遠くへ移動することはありません。

幼虫も特異な行動をします。幼虫が食べるのはウマノスズクサの葉ですが、幼虫が増えすぎて葉を食い尽くすと硬い蔓をかじって食べます。蔓もなくなると幼虫同士で共食いをします。

ほかにも特異な行動をします。幼虫が増えすぎますと、先に大きくなった幼虫がウマノスズクサの蔓を根本付近で切断し、枯らしてしまっ若齢の幼虫が育たないようにしてしまいます。残酷な行動に見えますがほどよい数を保つにはやむを得ないことなのかもしれません。

ジャコウアゲハという名前はオスの腹部に麝香（じゃこう）の香りがあるからです。（写真はメス）



記念植樹

桜木 晴代

奈良・人と自然の会への入会直後に参加した総会？の席で、10年継続会員に記念の品として、賞状と記念の盾が贈られていました。私はボランティアの会で、このような贈呈があることに驚き、会員を大切にしている会なのだと思います。また、同時に我が家には賞状も盾も飾るところがない！と、10年後のことを考えました。

ずっとこのことが気になっており、何か代わる方法はないものか？と考え続けていました。

そこで思いついたのが記念植樹です。いつか、テレビで孫が生まれた記念に、将来、実った果実を楽しんでもらえたらとの想いで実のなる木を植えているという話を聞いたことが。また、高校の卒業記念に校庭の片隅にユリノキを植え、母校を訪ねる度に成長を見届けていることなどを思い出しました。

抱き続けていた案が実現する機会がやってきました。幹事を引き受けてのことでした。10年継続会員の記念に植樹を提案し、賛成を得て実現する事になったのです。想いが叶い、嬉しきでいっぱいになりました。

初出の日に記念植樹が実施されることになりました。植樹された木です。

- 第1回 2019年 10名 富有柿（実りの森）
- 2回 2020年 11名 富有柿（実りの森）
- 3回 2021年 11名 富有柿（実りの森）
- 4回 2022年 6名 九尺藤（藤棚）
- 5回 2023年 10名 九尺藤（藤棚）
- 6回 2024年 13名 山法師（里山林）

先輩たちを、そして自らの、ならやまでの仲間・活動などを、木の成長を眺めながら思い巡らせることも嬉しいのではないのでしょうか。

朗報：柿の木の1本が一つ実を付けたそうです。

春の感謝祭レポ

とってもおいしくできました！

豊田 治代

「ええ匂いするなあ！ おいしいなあ！」あっという間にお代わりの列！ あんなに沢山有ったのに鍋底が見えているお鍋が皆さんに楽しんでいただけている事を物語っています。

天気予報の降水確率がずっと 60%、70%、おまけに雨天順延になる金曜日は 90%、材料を買いに行くべきかどうか担当者一同悩んで、悩んで！ 前日の午後五時になってやっと開催の目途が立ち、お買い物に行けることになった春の感謝祭！



エコグループの方々に、丹精込めて作っていただいたならやま産のジャガイモ、タマネギ、キュウリ、黒米、ニンニク等、会員の方々が家で作られ寄付いただいたトマト、トウモロコシ、レタス、キュウリ、等・・・！！全てが集まって春の収穫感謝祭の開催です。

事前にエコグループの方々、手伝ってくださる方々そして担当幹事3人で何度も話し合い準備をしてきた感謝祭！ それでもまだ何か忘れているような気がして心配で心配で！

事前に10Kgの白米を用意して、半分は佐保台小学校の皆さんと一緒に作った黒米さよおらさき入りのきれいな色つきのごはん。もう半分はピカピカに炊けた白ごはん。大きな羽釜で炊上がりました。

ガスコンロの上の大きなお鍋では、ジャガイモ、玉ネギ、人参がゴロゴロと入ったお馴染みのルーカレー、もう一つのお鍋では、小山さんに事前に色々ご指導ご寄付をいただいた小山カレー、加えて、大阪万博の時セイロン人のコックさんに教えてもらったセイロンカレーとの融合カレー、ガラムマサラ、ターメリック、ビンダルー、クミン、コリアンダー、タイム、オレガノ、ローレル等々十種類余りのスパイス、ココナッツミルク、赤ワインが入ったスパイスの香り一杯のエスニックカレーがグツグツと煮えています。

台所では経験豊かなエコグループの方々によって手際よく、収穫したての新鮮な野菜サラダ、ならやま産の赤玉ネギの酢の物、富井さんにご寄付いただいたキュウリとトマトとコーン、らっきょう漬け、福神漬けなどがお皿に盛りつけられていきます。デザートコーナーには、戸田さん特製のかわいいケーキ、フルーツポンチがおいしそうに用意されました。

私たちの一生懸命にお天道様も助けてくださったのか、雨も降らず、暑くもなく適度に涼風が吹き本当に感謝祭日和の中イベントを終えることができました。

お召し上がりになっていただいた会員の皆さま方、楽しんでいただけましたでしょうか？ おいしかったですでしょうか？ 準備、調理に加わっていただいたすべての皆さま方、とっても大変だったけれど、とっても楽しかったですね・・・？

自然の恵み、里山の素晴らしさを堪能させていただいた一日でした。



放課後自然教室 佐保台小学校

小島 武雄

6月29日(土)9時に佐保台小学校の1年生から5年生までの児童10名、未就学児3名保護者の皆さま13名、アドバイザー4名の総勢30名が集まりました。今回の自然教室のメンバーは5名で、富井さんの応援は大変助かりました。千載会長も顔を出してくれました。



<みんなで集合写真>

前日まで線状降水帯の大雨で実施が危ぶまれましたが、なんとか朝には曇り空に。予定していた観察路は悪く、ゆっくりコーススタートします。全員ヘルメットを装着して、最初に山歩きの準備体操をします。小さな子まで、みんなしっかりやってくれました。BCから出発、まず半夏生の鮮やかな白い葉がお出迎え。次は落羽松です。水の中から顔を出す気根の形に驚き、さっそく山道へ入ります。前日の雨で観察路は道幅いっぱい川の様になっています。たくさん降った雨水がキラキラと流れます。大人は流れを避けて隅の笹草の上を慎重に歩きますが、子供たちは靴が水浸しになっても、むしろ楽しそうです。どんどん歩きます。竹の子平を通過し、部分皆伐地を見渡して森の再生の話しながら、展望広場につきました。少し休憩です。みんなで生駒山や大極殿の屋根を遠望している時に、「あっ鹿だ！」の声、大きな角のある鹿が茂みに入って行く所でした。私は鹿の白いお尻しか見られませんでした。ちょっと前に、アオキの葉っぱが鹿に食べ尽くされた話をしていた後で、グッドタイミングでした。

ゆっくりと濡れた笹草道を下り、機関車広場に到着して丸太の機関車や駅名表示板の話の後、それぞれ午後の自然工作用の材料を拾い集めます。ちょっと休憩して後BCへ戻ると、いつ

の間にか青空に！日差しが強くなりました。熱くなった身体に、携帯ミストシャワーが好評で、子どもたちは列を作って冷たいシャワーに歓声を上げています。

「お腹すいたー」の声も、少し早いですが、それぞれ木陰のベンチで昼食です。

食後はウラジロ飛ばし、駐車場の土手の上から



思いっきり投げます。すべて草の斜面を滑り落ちる子も、キャーキャーといつまでも終わりません。

<土手からウラジロ飛ばし>

次に小川のせせらぎで、笹舟浮かべ、次々に流れるのを見ていると、タニシを乗せた笹舟も流れてきます。これも楽しそう。



小羊歯のピオンは、少しコツがあつて中々上手くいきませんが、これも夢中になってくれました。

<小川に笹舟を浮かべて>

最後は、段ボール紙の額作り、拾い集めた小枝



や葉っぱ、机の上には自然工作材料が、桜木さんがたくさんの木の实など持参してくださり、子どもたちは興味

<ビックリ力作揃い>

津々、保護者の方も多いに楽しんでくれました。最後に、みんなの作品発表では、子どもたちの力作披露とそのユニークで不思議な名付けを聞いて、可愛いと大盛り上がりでした。

最後に、「何が楽しかったの？」の問いには、「全部」だった様です。今回雨で行けなかった予定の冒険コースは、秋のお楽しみに取っておきます。「またきてねー！」で終了。

皆さまお疲れさまでした。

月例研修会

六甲高山植物園 レポ

六甲高山植物園など散策



飯島 八重子

7月8日(月曜日)六甲高山植物園への月例研修会が行われました。

今回の月例研修会は色々ハプニングがありましたが、「終わり良ければ万々歳！」でした。

当初、研修会は7月1日(月)に開催される予定でしたが、何と警報発令で急遽中止に。これには担当幹事も参加予定の会員さまもビックリ！中止連絡や次回振替日などの調整に担当者も大わらわでした。

そして再チャレンジの7月8日(月)は打って変わっての夏日。この日、色々な交通機関の遅延があり、出発に間に合うかな？との懸念もありましたが、集合時間には当日の参加者21名全員集合、バスは順調に9時に出発できました。

出発後バスの車中では早速会員差し入れのお菓子や、飲み物、おやつが配られ皆さんホッと一息。また神戸市にある六甲高山植物園に縁のある牧野富太郎に多大な支援をした池永孟(はじめ)氏の「懐を述べる」の文章を青木さんが披露。11時には六甲高山植物園に到着しました。

植物園では、ウマノスズクサの説明で、ジャコウアゲハの話に「ならやまにも来てるで～」との声。植物園内は、緑の木々の間から風が吹き、涼しい～！やはり海拔865mの山頂付近は違います。スタンプラリーをしたりしながら、見頃の花を中心に解説上手なガイドさんの説明



で、皆さん「ふむふむ、へえ～！きれいやね～！」の声をあちこちから聞こえます。満開のニ

ッコウキスゲや水辺の花を觀賞しながらロックガーデンへ。小便小僧広場のモリアオガエルの産卵場所では、落下を受け止めるタライが置かれてありビックリ！そしてアジサイの見頃場所にて記念撮影。ほぼ30分のガイドツアーが終了しました。その後出発時間まで三々五々、皆さん好きな場所で昼食タイムと園内散策をされ、13時15分に六甲高山植物園を後にしまし



た。次の目的地の六甲ガーデンテラスでは視界良好のこの日、展望デッキでは眼下に広がる眺望に皆さんの歓声が聞こえ、お土産購入やソフトクリームに舌鼓。14時30分にドライブウェイを運転手さんの慎重運転で次の目的地へ。

「灘神戸酒心館」では酒造りのビデオ映像を見てガラス越しの酒蔵見学をした後、3種類の試飲に「もうちょっと入れて欲しいな～」そしてお土産コーナーでのお買い物にはどれを買

うかなと思案顔。「今夜はこれでちょいと一杯」とニンマリ。酒樽前では笑顔の集合写真をパチリ。15時30分「酒心館」を後に予定通りバスは奈良へ向け発車しました。



帰りの車中では、恒例の(?)クイズ大会を楽しみながら、予定より少し早く近鉄奈良駅前に無事到着となりました。今回の研修会は日時の変更、参加費の変更など色々ありましたが、参加者の方からは、「涼しくて良かった」とのお声を多数頂き担当者も安堵致しました。皆さま

次回の月例研修会もお待ちしております。

自然教室

奈良育英グローバル小学校
「校庭の自然」学習支援



小島 武雄

7月8日(月)朝10時30分。小学校の校門前の広場に自然教室のメンバー7名が集まりました。気温は32度を超えていましたが、大きな桜の木影には少し風が吹いていて、暑さはあまり気になりません。スタッフで校庭を事前に確認しました。猛暑が続き、子どもたちは大丈夫かなと心配していましたが、なんとかなりそうです。11時に1年生18名、2年生21名の39名が集まります。紅白帽子のかわいい1年生、白いキャップの少しおませな2年生の子どもたちです。

- ① いつもの元気一杯のご挨拶の後、早速4班に分かれて、それぞれの場所からスタートです。魔法の草「カタバミ」を探します。すぐ横にある梅の木のお話と梅の花咲く頃や梅干しの話。
 - ② ふしぎなお散歩「ミラーウォーク」では少し怖いのかキャーキャー言いながら、芋虫みたいに歩きます。
「空を飛んでいるみたい」の声も。
 - ③ 「知っている草はどれだ？」すぐに「猫じゃらし」を見つけてくれました。お気に入りか、しっかり持って放しません。「ヨモギ」と「ドクダミ」の匂いを比べます。小さな「ヒメジョオン」の花、「ヤブガラシ」の蔓がからんでいるのを見ますが、1年生には少し難しそうです。
 - ④ 色んな木、「イチョウ」「マツ」「アラカシ」の木肌や葉の形を見ます。2年生には、後で葉脈の形写しの為に、お気に入りの木の葉を2、3枚採ってもらいます。
- ①～④まで各5分間では、とても足りませんが、何とか終了しました。冷房の効いた教室に戻り

10分間の休憩。

11時40分から学年それぞれの教室で、1年生は「10円玉磨き」、2年生は「葉っぱの写し絵」に挑戦します。10円玉磨きは、机の上に新聞紙、カタバミの葉っぱ一つかみ、そして使い古しの10円玉です。カタバミをもみほぐし、少し柔らかくして机の上に置いた10円玉を一斉に磨き始めます。「ワーッきれいになった、ピカピカや!」とっても得意そうです。出来上がった10玉は大事に持ち帰ります。お片付けもみんなで行いました。

2年生は、先ほど採ってきた葉を下敷きにし



て、大きな白い紙の上から2B鉛筆でこすります。すると上手に葉の葉脈が浮き上がります。

<葉っぱの写し絵>

スタッフが持参したアジサイやブドウの葉は、大きくて見栄え良く仕上がりました。手を黒くして、とても満足した様子です。それぞれ約15分、あっという間に12時になり終了時間です。「葉っぱの写し絵、楽しかった!」「10円玉はビックリや、もっとやりたいなー」の声を聞きながら。

最後に子どもたちが描いた、かわいいお手紙をもらいました、読み進めると、みんなから「楽しかった」「また来てください」のたくさん言葉がありました。

今日は子どもたちから元気をいっぱいもらいました。帰りに教室の窓から手を振るのが見



えました。私たちも「またねー」。

スタッフの皆さまお疲れさまでした。

<かわいいお手紙>

ここ10年ほどを思い出して

足立 勝洋

記事を書かせていただくことになりました。これをいい機会に、晩期自分史と「奈良・人と自然の会」との遭遇のご縁について思い出してみることになりました。暫しお付き合い下さいませ。

2009年1月末には最後のいわゆる勤め人業を辞めました。その後、個人事業主として生活している時のこと、多分新聞記事による募集に応じてでしたが、奈良市主催の「まほろばシニア・リーダーカレッジ」というのに参加しました。2011年5月のことでした。

これは市内で閑をもてあそぶシニアたちに「色んなことをして生き甲斐を！」みたいな活動でした。だいたい一年間だったと思います。その間の2012年2月16日木曜日のこと、カレッジの実習で、実はこのならやまに来て、「奈良・人と自然の会」の活動を見学させていただいたのです。その当時、幹部で現在もかくしゃく矍鑠と活動されている古川祐司氏にご案内をさせていただいたのです。また、別の実習日には、当時法華寺交差点南東隅で何と当会の池田富子氏が主宰されていた地元産品買い物市の見学もさせて貰いました。何れも、私としては、奇遇の思いです。

我が国の惨憺たる林業の実情を勉強してみたいとの思いが、その頃強く意識の底にありました。何をどこで勉強できるか探しあぐねて、取り敢えず、大阪の「シニア自然大学」に2012年4月に入校しました。昼間はまだ多忙でしたので、夜間部一年コースの星組18期でした。当会の高城光一氏が同級生でした。2012年10月4日木曜日には、シニア自然大学の教育実習で「奈良・人と自然の会」を訪問した記録があります。それで、我が家からそれほど遠くもなく、市内にこのような里山で、身体を動かせたらいいなどの思いで、「奈良・人と自然の会」に入れてもらったのでした。当時の会長は、藤田秀憲氏、事務局長塩本勝也氏でした。2013年

3月12日木曜日には新入会員歓迎懇親会を開いていただいたのでした。シニア自然大学のほうも、そうして並行的に一年が経ち2013年3月卒業しました。

一方、例の林業の勉強については、「森林大学」という6か月コースが大阪にあることが分かりました。早速その2013年4月に入学し9月に終了です。当時の森林大学学長は、YMCA 関連の方でしたので、その関係で鳥取県呼子高原にあったYMCAの大きな山小屋と所有林で合宿研修したのを思い出します。あとから分かったのですが、この森林大学というのは、「日本森林ボランティア協会」が主宰する学校で、森林メンテナンスを行うボランティアリーダー養成を主目的とする学校だったのです。当会の杉山耕二氏が先輩ということを知りました。

それはそれで楽しかったのですが、私がかじ齧りたかった林業については、当時物足りなかったのです。それで、森林インストラクター関連(2013年6月～8月養成講座、次いで受験、活動)、明日香村の明日香森林環境教育フィールド『Forest River』での活動参加(2014年中葉～2016年中葉)、NPO法人サウンドウッズ運営の「木材コーディネーター」養成講座(2014年9月27日～2015年3月30日)、と続々と活動に参加しました。そのあとも懲りもせず「近自然森づくり研究会」入会と続けました(2017年4月～)。随分とまあ色々並行しながらやってきたものです。

こうして、間接的ですが、自分の林業への興味とシニア自然大学とのご縁が、現在の「奈良・人と自然の会」への誘いに繋がってきたようです。今年1月、10年継続会員植樹もしていただきました。やはり活動地が近いのはありがたいです。

長々と私の晩期自分史にお付き合い頂き、恐縮です。ぼちぼち、人生の終着駅到着間近ですが、当会をもう暫くは続けさせていただきたいと思っております。みなさまよろしく願います。

回想の山旅②

台湾第三の高峰「シュウクリンサン秀姑巒山」(3829m)

中井 弘

台湾島は九州よりやや小さいが、地殻変動と造山活動の結果、雪山・中央・玉山山脈など大規模な山岳が形成され、3千米を超える高山は133座を数える。登山界では100座を選んで台湾百岳と呼び、百岳完登を目指す岳人が多い。

日本の山では3千米を超える山はたった17座。富士山を除けば、槍ヶ岳や穂高岳、北岳など、日本アルプスを代表するような高山でも3千米をわずかに超える程度の高さしかない。深田久弥の日本百名山の選定基準は、山の品格・歴史・個性の三つ。付加条件として1500米という線引きがあるが、高さだけで選んではいない。なお日本山岳会が2005年に全国支部の総力をあげて調査、「新日本山岳誌」に纏めた山数は約3000山を選定している。

深田久弥の書籍「世界百名山」はアメリカの登山家アルマン氏の選んだ世界百名山を基に選出しているが、その中に台湾の名山・高峰が一岳も選出されていないのが残念だ。

今回は、中央山脈に属する台湾第三の高峰「秀姑巒山(3829m)」を紹介する。この山は最高峰・玉山(3952m)と荖濃溪谷を挟んで対峙している。1985年春節に踏破した紀行文である。

第一日。玉山麓の登山基地「水里」に宿泊。

第二日。午前4時。手配したライトバンで出発。朦々たる砂塵をまきあげ高度を上げる。登山口まで4時間半、2600mの観高林務局の事務所に着いた。宿舎があり100人は泊まれる。

登山道は尾根筋を辿る。陳有蘭溪谷を隔てて玉山が聳えている。やがて八通関断崖に出て崖につけられた狭い急坂を登りきると明るく広潤な草原にでた。2955mの八通関峠である。玉山との分岐点で、避難小屋がありテント場には数張のテントが張られている。

八通関山(3404m)を空身で往復する。頂上からの眺望は素晴らしい。眼前に冠雪した玉山連峰が逆光に光っている。目を転じると目指す秀姑巒山は重量感のある佇まいである。



巴奈伊克山屋は20人程が横になれる避難小屋である。先行した友人の林さんと女友達陳さん

さんが腕を奮って野菜炒めと鴨肉のフライという充実した献立を準備してくれていた。

第三日。曇り、今日はいよいよ秀姑巒山往復である。昨夜の満天の星空を信じて出発。かなり下を流れていた溪流がだんだんせり上がり、氷結した40mほどの滝を過ぎると白洋金鉱跡だ。小屋横の洞窟には氷柱が幾条もみられた。道は樹林や大岩壁下部を横切っていく。もう高度は富士山を抜いたかもしれない。小屋から6時間も喘いでようやく秀姑巒山に達した。頂上には中華民國の国旗「晴天白日旗」が激しくはためいている。下山は3時間、疲労困憊で巴奈伊克山屋に辿り着いた。

第四日。午前7時、雪が舞う中出発、1時間で八通関に着いた。玉山からの下山者が続々と下ってくる。水里までトラックで降りるようだ。我々は長大な尾根筋を東埔温泉まで下ることにする。

先行の他のパーティーが先へ進めず立ち往生している。山火事だ。赤い火が立木をめらめらと燃やしていたが、我々は思い切って煙の中を走り抜けた。数十米だったが、体は灰神楽で真っ白になる。下山途中長い柄の鎌を持った消防隊に出会った。

バスに座り込んで、ビール・紹興酒を飲みながら沈む夕陽でシルエットとなった檳榔ピンロウの街路樹、農村風景、台湾ならではの美しい景色に酔いしれた。一路台北へ!

やさしい病害虫講座
ミカン類の病害虫—I

木村 裕

夏みかんなど柑橘類の葉に煤がついたように黒く汚れているのをよく見かけます。とくに道路沿いの樹で多いようです。すす病という病気が葉や枝の上で発生したためですが、その原因は虫にあります。アブラムシやコナジラミ、カイガラムシなどが新芽や葉に寄生して汁を吸い、その排せつ物が落下して葉にたまり、その排せつ物を餌にしてすす病菌が繁殖したために黒く汚れます。それゆえ菌自身はみかんの樹に直接の悪影響は与えないのですが、葉の表面を覆い隠すため、光を遮って光合成の妨げとなる二次的な被害を与えますし、美観も悪いですね。



この排せつ物はアリさんの好物で巣にセッセと運んで行きますが、供給が多いと運びきれず葉の上に残って積みあがります。葉の表面に粘り気のある液体がいっぱい付着し、ピカピカと光るのが特徴です。このような症状が現れれば何処かに虫がいるはずですが・・・

最も大きな発生源となっているのはミカンコナジラミと称する虫さんです。しかし皆さま方の目ではなかなか見つからないでしょう。この虫は長さ1ミリくらいの円盤状の平たい虫(幼虫)で、体色が淡緑色をしておりうまく葉に溶け込んでいます。この原稿の手配写真を参考に探してください。



一方、成虫は真っ白で、小さなハエのような虫です。葉を揺るとパットと四方に飛び散りますので見つけやすいです。

成虫は葉の裏に非常に小さな白い卵(成虫の横に写っている小さな点)を点々と産み付けます。卵からふ化した小さな幼虫はウロウロと歩き回り、ここが住みやすいと決めた場所に落ち着くと、もう動き回りはしません。この段階までは皆さんの目では絶対に見つかりません。



すす病対策の基本は虫を取り除くことで、葉の裏を狙って殺虫剤を散布します。葉を揺ると白いハエ(成虫)がいっぱい飛び散るときが防除適期です。幼虫は見つけにくいし、蛹(幼虫と同じ形)に対してはあまり効果がありません。それゆえ散布1週間後に再度散布することを推奨します。

黒っぽいアブラムシが新芽に群がって宴会を開いている時もすす病は発生します。また、白色やチョコレート色をしたロウの塊(ロウムシと称するカイガラムシ)が枝に密集している時も発生しやすいです。



Gallery ならやま



水彩画 神戸女学院大学の建物 戸田 博子

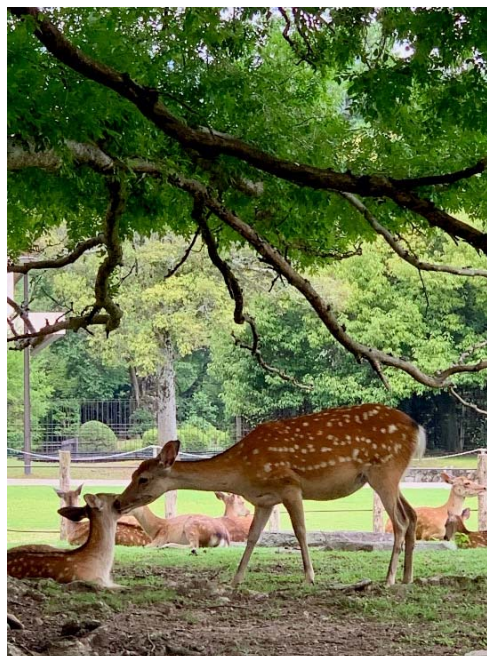
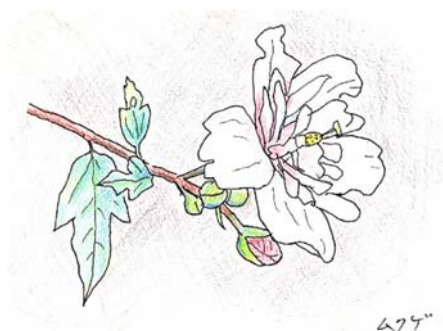


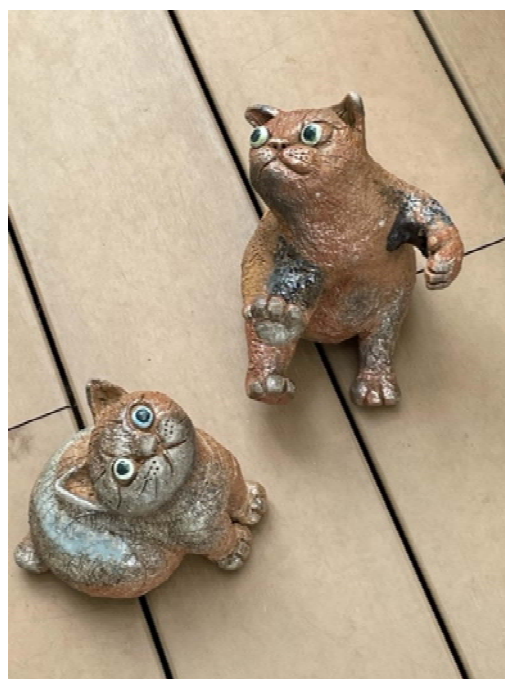
写真 ほおずり 國方 まり子



スケッチ ムクゲ 梨本 哲



陶芸 ペン立て 桜木 晴代



陶芸 穴窯で生まれた猫たち
5月生まれ(その1) 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

2024年7月度幹事会報告

開催日：6月25日



「やさい畑」という本を買ったら特別付録に「菌ちゃん農法」という土づくりを特集した小

さめの本がついていた。“野菜は菌とつながって強くなる”という内容で写真入りで詳しく書いてあり、肥料袋でもできるとのこと、早速試してみたくなった。3月の始め、肥料袋の底に数カ所水抜き穴をあけ、5cmほどの高さまで糞殻(小枝でも可)を入れて土を入れる。有機物(数カ月間雨にさらし、糸状菌が付いた杉の葉=ならやまにある)を5~10cmに切って土の上に置く。有機物の上に2~3cm土をかぶせ軽くまぶして、じょうろで水をさっとかけ袋の口をたたんで閉じる。(雨が入らないようにしっかりテープ)これで仕込みは完了! 日陰で雨が当たらない場所に置き、2~3カ月待つ。5月の連休明けに茄子の苗を買って植えてみた。今のところ順調! 収穫が楽しみな毎日です。



- I. 会計・総務部より
 - ・会員動向：会員数132名(家族13名) 退会1名
 - ・会計：収支報告あり
- II. 活動・行事関係に関する議題・懸案・確認
 1. 3ヶ月活動スケジュール検討・確認
 - ・7/8 グローバル奈良育英小学校の校庭自然学習の実施決定。
 - ・9/14 佐保川小学校学習支援の雨天予備日が、他のイベントと重複するため、スケジュール調整する。
 - ・今後、イベントの日程については第4土曜日の活動と重複することに注意。
 2. プロジェクト関係
 - ・夏時間開始 9時~12時30分
 - ・暑さ対策について検討協議。
 - 午前中の活動でもあり、原則として事前の活動中止はせず、活動中に暑さ指数を監視しながら、休止・中止を判断する。
 3. イベント関係
 - ・7/20 山の日川の日イベント
 - 熱中症特別警戒アラート発令時は中止
 - ・2024年度イベント計画表の担当確認。

- III. 助成金関係
 - 本年度事業は順調に進行中。
- IV. 広報関係
 - ・会員メール利用状況調査の結果90%以上が利用できていることが確認できたので、これまで通り、通常連絡方法はメールにて行うこととする。
 - ・HPリニューアルが最終確認された。
 - 今後の外部への新たな種類の情報公開については編集会議にて判断し、重要事項については幹事会に諮ることとする。

次回幹事会は7/30(火) 中部公民館 14:00~

奈良学クイズ7月号解答

問1：東大寺二月堂 問2：談山神社

9月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 9/5 協働活動日
- *佐保台小放課後こども教室 9/14
- *ジュニア自然大学こどもゆめくらぶ 9/21

会員動向(敬称略)
<退会者> 6/30 徳地 恵男

発行：奈良・人と自然の会
URL：http://www.naranature.com
編集代表 Mail: editor@naranature.com
編集委員：青木(幸)・尾崎・清原(加)
柴田・千載・田中・戸田

表紙写真：飯盒で薪を使ってご飯を炊いています、うまく炊けますように